

# 支 援

町田市教育委員会

指導課長 小池 慎一郎

## 中学2年生職場体験始まる(I期)

今年度も、9月12日より中学2年生の職場体験が始まりました。学校支援センターは、生徒の受入を発足当初からやらせてもらっています。一部のカリキュラムでは、教育委員会の他部署に配属された中学生も受け持って指導しています。職場体験は、事前指導も含めると30時間ほどの取り組みとなります。職業について、地域の大人から教えていただく学習として、キャリア教育のなかで大きな位置を占めています。

町田市では、中学生と職場とのコーディネート教育委員会と学校とでやっていますが、都内では、学校独自で体験先を探して、取り組んでいる地域も多くあります。小学校における職場体験では、学校とコーディネーターが体験先を開拓しているところもあります。学校支援センターとしましても、キャリア教育のなかで大きな位置を占めている職場体験が、どのような様子なのか参観させていただこうと考え、近くの受入れ事業所へ職場体験中の中学生とともに取材に行きました。



インタビューで印象深かったのは、「この仕事をしていて何が大切だと思いますか？」という中学生の質問に対する、「元気が大切だと思います」という返答でした。健康面の元気だけではなく、精神的にも元気であることが大切だと受け取りました。

職場体験で感じたことを、中学校生活や今後の人生に活かしてほしいと願っています。

## 【金井中学校 部活動わくわく体験】

金井中学校では、9月10日（土）、学校公開日・説明会に合わせて、金井小学校・藤の台小学校・大蔵小学校など学区内の小学校のボランティアコーディネーターとも連携し、6年生の中学校部活動体験を行いました。

金井中学校では、昨年度、企業の陸上選手から指導を受けるにあたり、他校の陸上部にも参加を呼びかけるなど、部活動に力を入れています。今回、体験できたのは運動系がバレーボール・剣道など7つ、文化系が吹奏楽・家庭科など4つでした。

小学生が中学校生活で期待していることの一つに部活動があり、その活動をこのように体験することにより中学校進学イメージを膨らませることができると思います。また、町田市近隣の公立中学校では、夏休みの後半に、実際に中学校教員が学区内小学校6年生を対象に中学校の模擬授業体験を行ったそうです。

これらの取り組みは、中一プロブレムといわれる中学校進学時の不適応を減らすために効果があるものと思っています。



## 第一地区第2回 VCM を新潟県燕市地域本部コーディネーター参観

台風一過の9月22日（木）、第一地区の2回目のボランティアコーディネーターミーティング（VCM）が小山小学校で行われました。当日は、新潟県燕市より指導主事1名と地域コーディネーター7名が参観に来られました。町田市教育委員会より安斎統括指導主事にも出席をいただきました。前回と同様、桜美林大学の福原様、法政大学の高山様にもご出席をいただきました。燕市は昨年度も感謝状贈呈式をご参観いただき、今回来られた7名のうち3名が町田市来訪は2回目となります。

ミーティング開始前に、町田市学校支援センターについて説明させていただきました。洋食器で名高い燕市は、合併でさまざまな地域が1つの市となり、地域性も地域コーディネーターの年齢やキャリアも様々です。

続いてのミーティングでは、第一地区の各小学校ではどのような取り組みをしているのか、情報交換を行いました。地域密着型の授業（畑・学校林の活用）、新しく地域と学校との関係を作っていくための努力、大学との連携等の情報交換を行いました。

法政大学多摩ボランティアセンターからは、夏休みを利用して、東日本大震災の被災地に学生ボランティア派遣を行っていた話がありました。

これらの話を受けて、燕市の方から、「町田市が地域に根ざした取り組みを進めていることがわかりました。燕市に帰ったら、これまで以上に地域のことがわかり、愛着と誇りが持てるよう、地域の方に積極的に学校に来てもらう活動を行いたい」という感想が話されました。制度は違うかもしれませんが、悩みや目指す方向は同じだと思います。これからも、都内や全国の方と情報交換をしながら取り組んで行きたいと思います。



#### 【鶴川第一小学校 桜美林大学による演劇教室】

鶴川第一小学校 5・6 年生が、学芸会に向けて演劇の基本的なことを学ぶために桜美林大学に指導を依頼したところ、お忙しい中、総合文化学群の先生と演劇コースの学生が 3 人、指導しに来てくださいました。最初は「体ほぐし」で、講師のふりをよく見てテンポをずらしてまねるジェスチャーエクササイズを、次に「エア大縄跳び」（大縄があるものとして学生 2 人が思いきり回す中を見童が一人ずつ跳んでいくふりをする）を行いました。100 人を跳ばせるために、大縄を回す動作は大変だったと思います。

最後のお話で、講師の今井朋彦先生より「相手や周りの人を見たり触れたりすると心が動きます。相手の動きをよく見て動くことが大切です」「すべてのことをあるものとして演じ、みんなであると信じてやると劇になります。それがお客さんに伝わるのです」と話されました。相手や周りの人の動きに集中して、全員が心をつにすることの大切さを教えてくださったと思います。

講師の今井先生は大学の授業や舞台・テレビにと多忙な方で、学校からの希望には沿いかねることもありますが、まずは担任がチャレンジしてみて、このところの指導をお願いしたいという要望が一番よいのではないかと思います。今井先生、学生さん、お忙しい中ありがとうございました。



## <事務連絡>

### 【音読・朗読の聞き手ボランティア参観のお誘い】

鶴川第三小学校では、10月21日（金）に予定している「町田市研究推進校」発表の取り組みの一環として、1学期より20名程の「全校児童の音読・朗読を聴いてくださる方」に、地域からボランティアとして来校していただいています。1学期の地区別VCMでも紹介したかと思いますが、児童にとっても地域ボランティアの方にとっても素晴らしい取り組みだと思えます。

12月1日（木）3校時に4年生が、12月21日（水）3校時に5年生が行います。学校支援センターからも、12月1日に取材に行きたいと思っています。先生方、VCの皆様で参観を希望される方は、直接、鶴川第三小学校の副校長先生にご連絡の上、ご参観ください。

### 【有償ボランティアと無償ボランティアの仕分けを今から】

先般、「ボランティアの謝礼支払い基準」を各学校に配布させていただきました。都や市の調査では、ボランティアが何人という数字だけでなく、有償ボランティアが何人、無償ボランティアが何人という報告が求められてきています。

年度末の集計に向けて、前記の有償・無償という分類でもまとめておいていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

### 【文部科学省調査にご協力ありがとうございました】

急なお願いにもかかわらず、文部科学省の調査にご協力いただきありがとうございました。おかげさまで、無事に報告することができました。これまでの調査と違い、事業数ではなく分野別の日数という点に戸惑われたのではないかと思います。

毎年、年度末にお願いしていた調査がどうなるのか、今の段階では明確ではありませんが、「年度末に実際の数」ではなく「この時期に当年度の見込み数」の調査に変わる可能性はあります。学校支援センターとしましては、有償・無償を加えたこれまでのような実績調査を行わせていただき、経年変化を見ていきたいと思っています。集計方、よろしくをお願いします。

### 【東京都 教育支援コーディネーターミーティング】

同封しました11月26日（土）都庁にて開催される「教育支援コーディネーター・フォーラム」の申し込みは11月9日（水）までに町田市学校支援センターへ、11月9日（水）14:00から16:30、多摩市立第一小学校で実施する東京都のコーディネーターミーティングは各自で申し込んでください。町田市内中学校からの事例紹介もあります。

### 【新ボランティアコーディネーター紹介】

相原小学校 中島 真由美 さん

金井小学校 藤田 みどり さん

町田第二小学校 内田 由理 さん

小山ヶ丘小学校 原田 有希子 さん

